

## コンクリート技術に関する JSCE-VCA ジョイントセミナー開催報告

2013年9月19日と20日にベトナムのホーチミンにおいて、ベトナムコンクリート協会 (Vietnam Concrete Association) と土木学会 (JSCE) コンクリート委員会とのジョイントセミナーが開催されました。土木学会コンクリート委員会では、過去に台湾、モンゴル、韓国、ベトナム、スウェーデン、ギリシャ、トルコでジョイントセミナーを行っています。ベトナムについては、2012年のハノイで実施したセミナー (日本貿易振興機構と共催) に続いて、日本のコンクリート技術の紹介、ベトナムにおけるコンクリート技術報告が行われました。



写真1：挨拶をするベトナムコンクリート協会会長 Le Quang Hung 博士

セミナーは、ベトナムコンクリート協会の会長である Le Quang Hung 氏 (写真1) と副会長の Nguyen The Hung 氏、日本側団長の河野広隆氏 (京都大学教授) の挨拶で始まりました。

2日間のセミナーで約150人のベトナムの研究者や技術者が参加し、日本側から7件、ベトナム側から2件の講演が行われました。日本側の講演では、河野広隆氏が日本のコンクリート技術の変遷とコンクリート標準示方書について、谷口秀明氏 (三井住友建設(株)) がコンクリート標準示方書施工編の概略とコンクリート施工の基本について、小川洋二氏 (日本ヒューム(株)) がプレキャストコンクリート技術について、鈴木良

和氏 (ジャパンパイル(株)) が節杭の特徴、適用性について、浅本晋吾氏 (埼玉大学准教授) が収縮、クリープの予測について、奥山康二氏 (電気化学工業(株)) が吹き付けコンクリートの技術について、多田克彦氏 (太平洋セメント(株)) が高流動・高強度コンクリートの技術について講演しました。ベトナム側からは、ベトナムのコンクリート技術の概要、Mekong川の砂を用いたコンクリートの問題についての講演がなされました。今回の日本側の講演内容はベトナム側からの具体的なリクエストに基づいたものであり、昨年度のセミナーに引き続いて、日本の示方書への関心が高まっていると言えます。出席者からは日本の技術に関して多数の質問が出されました (写真2)。



写真2：質問に答える河野教授

質疑応答中、ベトナムでは他国の様々な基準を翻訳して現場ごとに異なる基準を使い、古い基準と新しい基準が混在している状況にあり、他国の基準を単に翻訳して基準化するのではなく、日本のようにベトナムに合った独自の基準を整備するべきだという意見がベトナム側から出ました。また、今回の講演は2007年版の示方書に基づいた内容であり、2012年版の示方書の英語版発刊について、ベトナム側の興味も高く、早期の英語化が期待されていました。最後に、今後のベトナムのコンクリート技術発展のためにも、今後も日本側と同様のセミナーを開催したいと、ベトナムコンクリート協会から強い要望を受け、セミナーは盛況に終わりました。



セミナー関係者集合写真

なお、本ジョイントセミナーは、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものです。ここに記して謝意を表します。

【記 コンクリート委員会 浅本晋吾 (埼玉大学)・ファン ハウ ユイ ウォック (清水建設)】